

<第18回榎野川河口域・干潟自然再生協議会会議>

「榎野川河口域・干潟自然再生協議会」の第18回目の会議を平成26年4月27日、山口県漁協山口きらら支所で開催し、当日の参加者数は42名でした。今回は、委員の任期が3月末で終了したことから、第6期委員の募集により、62名でスタートすることになりました。また、会長に浮田委員、会長代理に山元委員がそれぞれ選任され、第1期から長年会長を務められてこられた中西委員は、このたび顧問として本協議会の発展のため、引き続きご指導していただくこととなりました。次に、平成25年度の自然再生事業、平成26年度の活動予定等について報告されました。



第18回干潟自然再生協議会会議の様子

<第1回榎野川河口域・干潟自然再生協議会専門委員会>

平成27年3月5日、本協議会において協議会委員を中心とした14名からなる順応的取組促進専門委員会を発足しました。

第1回目の委員会は3月30日山口大学工学部内で開催し、これまでの取組や平成26年度の活動報告を基に、平成27年度の活動計画や今後の活動方針について意見交換を行いました。

今後は、専門委員会で、これまでの活動に関する評価を改めて行うとともに、今後の活動方針案をまとめ、協議会に提案する予定です。

<平成26年度の取組まとめ>

実施日	内容
	○モニタリング：アサリ個体数、アサリ稚貝着定、あさり姫調査 適宜実施〈環境保健センター〉 ○アサリ（間引き）、被覆網の管理、モニタリング等（適宜実施）【水産多面的機能発揮対策事業】 〈山口湾の干潟を守る会（山口県漁協山口きらら支所）〉
4月 27日	○第18回榎野川河口域・干潟自然再生協議会会議 ○住民参加による干潟耕耘（耕耘）、地盤高調整区の作成（被覆網設置）、あさり姫の館設置、干潟生物観察会等／南潟 【榎野川もり・かわ・うみ自然再生プロジェクト(AQUA SOCIAL FES!!2014)】 〈榎野川流域地域通貨・連携促進検討協議会、山口県漁協山口きらら支所〉
6月 30日	○カプトガニワーキンググループ打ち合わせ会議
7月 19日	○ふしの川水系クリーンキャンペーン〈榎野川漁協、山口市〉
7月 27日	○カプトガニ観察会〈山口カプトガニ研究懇話会〉
8月 3日	○榎野川まるごと体験学習 【榎野川もり・かわ・うみ自然再生プロジェクト(AQUA SOCIAL FES!!2014)】 〈榎野川流域地域通貨・連携促進検討協議会〉
8月 28日	○カプトガニ幼生生息調査／南潟〈カプトガニワーキンググループ〉
9月 7日	○カプトガニ幼生生息調査／長浜〈カプトガニワーキンググループ〉
9月 11日	○カプトガニ幼生生息調査／南潟〈カプトガニワーキンググループ〉再調査
10月 5日	○秋の干潟再生活動〈榎野川流域地域通貨・連携促進検討協議会、山口県漁協山口きらら支所〉
10月 11日	○あゆ産卵場造成〈榎野川流域活性化交流会〉
1月 21~22日	○平成26年度自然再生事業実施円滑化会議／福井県若狭町〈環境省〉
3月 1日	○宇津木の里森林整備／宇津木の里〈榎野川流域活性化交流会、宇津木の里〉（雨天中止）
3月 7日	○ヨシ焼き／きらら浜自然観察公園内ヨシ原の一部 〈きらら浜自然観察公園ヨシ焼き協議会（NPO法人野鳥やまぐち）〉
3月 30日	○榎野川河口域・干潟自然再生協議会第1回順応的取組促進専門委員会

※ 資料の公開方法  
協議会で公開された資料及び議事要旨等については、榎野川河口域・干潟自然再生協議会のホームページ（<http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/fushino/index.html>）で公開しています。  
※ ご意見・ご質問等の問い合わせは、事務局（山口県環境生活部自然保護課）に電話、FAX、メールでご連絡ください。  
TEL 083-933-3060、FAX 083-933-3069、E-mail a15600@pref.yamaguchi.lg.jp

# 榎野川河口域・干潟自然再生協議会 ニュースレター

No.11

発行日：平成27年3月  
事務局：榎野川河口域・干潟自然再生協議会

このニュースレターは、平成26年度に榎野川河口域・干潟自然再生協議会で話し合った内容や自然再生の取組の状況などをお知らせするものです。

## 活動の輪広がる！

### ANAと日本ユネスコ協会連盟が榎野川流域での活動に初参加！！

平成25年12月9日、榎野川流域での自然保護活動が、（公社）日本ユネスコ協会連盟が実施する第5回「プロジェクト未来遺産」に登録されたことを受け、平成26年10月5日、榎野川流域地域通貨・連携促進検討協議会及び山口県漁協山口きらら支所が山口湾（南潟）で実施した「秋の榎野川河口干潟（南潟）再生活動」に、ANA（日本ユネスコ公式サポーター）と日本ユネスコ協会連盟の参加がありました。

活動内容は、春に実施した干潟再生活動後の定期モニタリングを中心としたもので、子供たちによる「あさり姫の館」内で育ったアサリの計測の他、定点のアサリ調査、春の干潟再生活動で設置した地盤高調整区の台風被害復旧作業（泥砂掻き出し&アサリレスキュー）等を実施し、その後、榎野川の天然アユの塩焼き等食事を通して交流を行い、食後は、榎野川流域のこれまでの活動について講演会が開催されました。

また、この度、ANA及び日本ユネスコから今後の活動に向けた活動資金及び長靴の提供がありました。



集合写真



アサリの成長測定



定点のアサリ生息調査



地盤高調整区のアサリレスキュー



アサリの個数測定



被覆網の手入れ



活動後の昼食で交流



講演会の様子

# 干潟再生活動&榎野川流域づくり活動トピックス

## <南潟 干潟再生活動「榎野川もり・かわ・うみ自然再生プロジェクト」>

平成26年4月27日、榎野川流域地域通貨・連携促進検討協議会及び山口県漁協山口きらら支所の主催で、干潟再生活動が実施されました。

今年も、トヨタ自動車の協賛を受け「AQUA SOCIAL FES!!2014」として、お揃いの「青い」ピブスを着用して取り組みました。

また、開催に先立ち、今年も『榎野川の幸を味わう試食会』として、榎野川河口域（南潟）で育ったアサリのみそ汁や、山菜、稚アユの天ぷらなどが振る舞われ、干潟再生活動の前に榎野川の幸を堪能しました。



榎野川河口域南潟



山口湾のアサリ汁

## 干潟再生活動の様子

今年度の活動は、地域住民の皆様をはじめ、大学生や協賛のトヨタ自動車ディーラーなど、総勢252名で行いました。

干潟では、3つのグループに分かれ、恒例の干潟耕耘作業の他に、初の試みで、地盤高調整（掘り下げた）区画を設置しました。ここでは、掻き出した砂をバケツリレーで移動するなど、大掛かりな作業となりました。

さらに、親子連れのグループを中心に、アサリを竹筒に入れて育てる『あさり姫プロジェクト』の試験を継続するため、改良版あさり姫の館を20基設置しました。

その他、干潟再生活動に参加した子供たちを対象とした「干潟生き物観察会」も行われ、砂や泥、生き物、海風にふれながら、皆さん干潟での作業を楽しんでいました。

広大な干潟における大人数での活動は圧巻で、干潟耕耘作業は予定よりも早く終わり、各々人手の足りないグループへ応援にいくなど活発な活動となりました。大学生等新たな参加者の他、おなじみの顔ぶれもあり、地域に根付いた活動となっております。今後も、指標であるアサリ資源の増産を目指し、環境学習や漁場などの場所として順応的に再生活動を進めていく予定です。



うね耕耘



あさり姫の館（改良版）



地盤高調整区設置



被覆網の掃除



バケツリレーによる泥砂掻き出し



生物観察会



集合写真

## <榎野川まるごと体験学習「榎野川もり・かわ・うみ自然再生プロジェクト」>

トヨタ自動車協賛のAQUA SOCIAL FES!!2014（2回目）のプロジェクトとして、榎野川の源流域にある「宇津木の里」で森林保全活動を主としたイベントが、榎野川流域地域通貨・連携促進検討協議会の主催で開催され、流域住民等35名の参加がありました。

当日は途中から雨が降るなど、一部プログラムを変更しながらの実施となりましたが、参加者は、アユのつかみ取りの後、そのアユを塩焼きで食べたり、竹細工や型染め、樹木図鑑を作成するなど、榎野川流域の自然を楽しみつつ、山の恵みを満喫していました。



アユの塩焼き



森林管理の説明



アユのつかみ取り



竹細工体験



型染め体験

## <水産多面的機能発揮事業による取組>

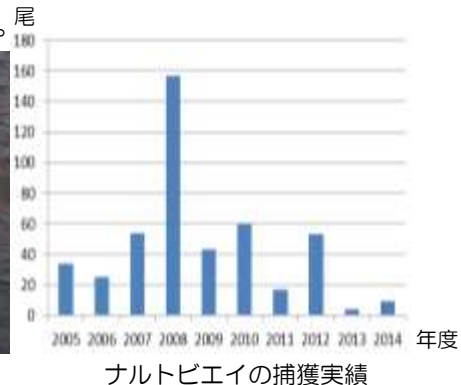
山口県漁協山口きらら支所で活動する「山口湾の干潟を守る会」は、水産多面的機能発揮事業を活用して、被覆網管理、アサリのモニタリングを実施しました。また、榎野川漁協では、ナルトビエイの駆除（20回、9匹）を実施しました。ナルトビエイの捕獲実績は最近減少していますが、捕獲については天候に左右されることも多く、ナルトビエイが減少しているとは断定できない状況にあります。



被覆網の張替え作業



ナルトビエイの駆除活動の様子



## <カブトガニワーキンググループの取組>

山口湾のカブトガニ産卵場、生息場の保全を図るため、カブトガニワーキンググループ（原田直宏グループリーダー）を中心に、平成18年度から継続して取組を実施しています。

平成26年度は、9月7日に長浜で、9月11日に南潟でカブトガニ幼生の個体数調査を行いました。その結果、発見された幼生は長浜848個体、南潟406個体の計1,254個体でした。発見された個体数は昨年比で減少しましたが、大きめの個体が多く見られました。



カブトガニの探索



カブトガニ（幼生）の記録

